

【彙報】（平成二十二年四月～平成二十三年三月）

◎平成二十二年度埼玉大学国語教育学会大会・総会

○平成二十二年十一月二十七日（土） 於埼玉大学

◇研究発表

①若者ことば研究―ブログからみる表現方法―

入谷 彩香（埼玉大学大学院2年生）

②谷崎潤一郎論

宮路 智美（埼玉大学大学院2年生）

③論春秋歌合の研究

豊島 香織（埼玉大学大学院2年生）

④伝説歌の展開―松浦歌群を中心に―

野口勇一郎（埼玉大学大学院2年生）

◇講演会

「授業を創る 授業を楽しむ」

―大村はま国語教室から学んだもの―

甲斐利恵子（東京都港区赤坂中学校）

◇総会

◎平成二十二年度例会

○平成二十三年二月十四日（土） 於埼玉大学

◇卒業研究発表

①荀子の人間観について

小泉 政（埼玉大学4年生）

②プロ野球野村克也・東北楽天ゴールデンイーグルス元監督の試合後インタビューに見る

「野村のぼやき」についての考察

野村 和宏（埼玉大学4年生）

③ミステリから見る社会学

松田 祥平（埼玉大学4年生）

◇修士論文発表（14時40分～16時）

①谷崎潤一郎論

―関西弁小説における否定語の研究―

宮路 智美（埼玉大学大学院2年生）

②若者ことば研究

―ブログの中の自分と読み手意識―

入谷 彩香（埼玉大学大学院2年生）

③『論春秋歌合』考―和歌の解釈を中心に―

豊島 香織（埼玉大学大学院2年生）

◇退職記念講演会

「私と文法論」

青木 勝彦（埼玉大学）

◇埼玉大学国語教育学会研究奨励賞授賞式

◎平成二十二年度修士論文・卒業論文題目

○修士論文題目

平成二十二年度修了生（平成二十三年三月修了）

谷崎潤一郎論

―関西弁小説における否定語の研究―

宮路 智美

若者ことば研究

―ブログの中の自分と読み手意識―

入谷 彩香

『論春秋歌合』考―和歌の解釈を中心に―

豊島 香織

○卒業論文題目

平成二十二年度卒業生（平成二十三年三月卒業）

ミステリ論

伊藤 大祐

「まじる」と「まざる」

井上 紗希

宮沢賢治研究

上田 彩香

学級におけるサードプレイスの創造 大野真里奈

敬語研究―「〴〵していただく」について

沖田 絵梨

日本における教職へのイメージの研究

押田 裕恵

『搜神記』における「鬼」と「動物」について

押田 佑季

少女マンガ研究

〴〵昨今の児童・生徒が求める教師像

川野 貴博

漢字教育についての考察

菅野陽太郎

エルマー三部作の児童文学的特徴について

久世 俊介

『かいけつゾロリ』の研究

倉島 一樹

荀子の人間観について

小泉 政

「我が国と郷土を愛する」態度をいかに育むか

小関 史帆

音の表現について―草野心平の詩のオノマトペ

佐藤 瑞生

樋口一葉研究

進藤 祐子

戦争児童文学

鈴木久美子

「クレヨンしんちゃん」に見る

三種類のメディアと内容の変化

―リメイクという観点から

教育に活かすことを目指す

田中 崇亮

幻想文学の効能

―内田百閒に見る幻想と日本語文学

田谷美奈子

モーリス・センダック研究

永原 陵司

語彙の研究

成田 和基

今昔物語語集研究

野坂 恵美

プロ野球野村克也・東北楽天ゴールデンイーグルス元監督の試合後インタビューに見る野村のぼやぎについての考察

野村 和宏

学校における読書指導

萩野真理子

『ドラえもん』と教育学

廣瀬 匠

若者ことばと若者の使用する文字について

藤瀬早紀恵

「韓非子」からみる道家思想と

法家思想の接近について

「話すこと 聞くこと」

星野 大和

江戸後期の歌舞伎における「貴様」の用法

増田 岳人

ミステリから見る社会学

松田 祥平

文学教材の指導法研究

水野 雄貴

アニメ「ケロロ軍曹」にみる

「機動戦士ガンダム」のパロディについて

三ツ木一貴

「日本語方言語彙の世代的変化について――福島県東北地区」

村井 悠希

孟子の人間観

村上 祐介

司馬遼太郎の小説の書き方―リアリズム小説論

八木澤耕太

泉鏡花研究―描写から見る理想の女性像

和知 涼香

小野不由美「月の影 影の海」研究

藤井 梨紗

◎埼玉大学国語教育学会研究奨励賞

第十二回埼玉大学国語教育学会研究奨励賞受賞論文及び受賞者は、次の通りです。

敬語研究―『〴〵していただく』について

沖田 絵梨

荀子の人間観について

小泉 政

幻想文学の効能

―内田百閒に見る幻想と日本語文学―

田谷美奈子

プロ野球野村克也・東北楽天ゴールデンイーグルス元監督の試合後インタビューに見る野村のぼやきについての考察

野村 和宏

ミステリから見る社会学

松田 祥平

編集後記

『埼玉大学国語教育論叢』第十五号をお届けします。

本号には、平成二十三年三月に埼玉大学を退職された青木勝彦先生の御講演を掲載することが出来ました。本学会へに対する先生の長年のご貢献を感謝するとともに、これからますますご健勝でご指導下さいますよう、祈念致します

さて、本号には、その他にも論文、訳注、研究ノートと、多彩な論稿をそろえることが出来ました。今後とも、会員諸氏には、論文だけでなく、実践報告やエッセイ等、さまざまなジャンルにわたるご投稿を受け付けておりますので、奮ってご応募ください。

(T)